

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

おはようございます。

通告書にはありませんが、一般質問に先立ち、元日の令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々の心から哀悼の意を表するとともに、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

被災地の復興と復旧が、一日も早く進むことを願うとともに、復興に尽力されている皆様には、安全に留意され、ご活躍されることをお祈りいたします。

1、「石のまち」からの内外のジオパークへの提案について。

糸魚川市は2019年より「石のまち」を標榜し、その際に行ったアンケートでは、糸魚川市を表す最も魅力的な言葉として「ヒスイのまち」が糸魚川市と首都圏の両方で1位となっております。当地は世界最古級のヒスイ文化発祥の地であり、糸魚川のヒスイは世界一の鉱物学的多様性を有しています。当市の主要産業のクロロプレンゴムや石灰窒素などを製造する化学工業とセメント工業の主原料の石灰石は言うまでもなく石です。糸魚川はまさに「石のまち」であり、糸魚川を内外にPRするときに「石」は極めて重要かつ分かりやすい単語であり、この石を創意工夫して利用することが当市の独自性を高めると考えます。私は2016年の日本地質学会の県の石と日本鉱物学会の国石、2022年の新潟県の石に関わってきましたが、糸魚川の石のさらなる価値と魅力向上について、今回、2つの政策提言をさせていただきます。

(1) 日本ジオパークネットワーク（JGN）には46か所のジオパークがあり、それぞれの地域で地質資源の保護保全と利活用がされています。どのジオパークでも石があるのですが、日本地質学会が2016年に発表した県の石のように、それぞれのジオパークを代表する石について、JGN内で統一した取組はされていません。日本最初の世界ジオパーク認定地として、JGNの発展隆盛を目的として糸魚川からJGNの各ジオパークの石の選定を提案することについてのご見解を伺います。

(2) 糸魚川は世界ジオパークネットワーク（GGN）に加盟するとともに、アジア・太平洋地域ジオパークネットワーク（APGN）の一員でもあります。現在のAPGNのメンバーは、中国、イラン、インドネシア、日本、マレーシア、韓国、タイ、ベトナムです。これらの国からは、ヒスイや軟玉が産出あるいは古くから利用されています。このことからAPGNを象徴する石たちの選定を糸魚川から提案し、APGNの一事業として採用されれば、ヒスイや軟玉はAPGNの石として有力候補となると思われます。APGNの石たちの選定を糸魚

川から提案することについてのご見解を伺います。

以上、1回目の質問となります。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1点目と2点目につきましては、いずれもヒスイなど、岩石及び鉱物の価値は、各ジオパークの魅力の向上に資するアイテムであると思います。ジオパークの活動の発展やネットワーク貢献についても十分考慮し、検討してみたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

2回目の質問です。

ジオパークでは、石が基本であることは、言うまでもありません。この1番のJGNの石の選定については、JGNの発展と隆盛を目的とするものだという事は、冒頭申し上げました。この石を決めることで、幾つかの効果が考えられます。

最初の1つ目の効果というものは、石を決めることでJGNのメンバーが、協力して取り組む必要があるわけです。JGNの連携を強化できるのではないかとというふうを考える次第です。

ちょうど私の一般質問と合わせたわけではありませんが、3月2日からフォッサマグナミュージアムでは、ジオパーク巡回展「地球時間の旅」が始まります。このキャッチフレーズは、作る、つながる、伝えるとなっています。まさにつながるは、ジオパークの連携そのものです。連携の強化に、ジオパークの石は使えないでしょうか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かにジオパークのベースは、やはり大地であるわけですので、石というのは、やはり大きな要素を占めると考えております。その辺、このジオパークの活動の中で、本来でありますと、このジオパークの指定という形になるわけでありましたが、各ジオパークの活動は、ネットワーク活動の中で醸成し、また向上していくものと捉えております。

そういう中で、やはり共通項のそういった一連のものがあることによって、非常に発展する部分があるかと思うわけでありませんが、しかし、それはやはりこのネットワーク全体の共通認識にな

ってくるというのは、なかなか理解するまでもちよっと多少時間かかるのではないかなと思って
おります。それは、やはり当糸魚川市はヒスイを一つの核にいたしておるわけでございますので、
糸魚川は理解できるわけでありますが、やはりいろいろなジオパークでは、基本にしているところ
や、いろんなところがあるわけでございますので、そういった連携していくには、この共有する場
というものが必要になってくるなどは捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

2つ目の効果をちょっと申し上げます。

ジオパークの石を決めることで、まず、自分のジオパークだけでなく、ほかのジオパークには
どんな石があるのかなということを知ることができることです。つまり、相互に理解して、なおか
つ自分のジオパークを客観的に見ることができるようになるんじゃないかと思います。

市長はよく、グローバルということが非常に重要だとおっしゃってますけども、まさに地域性を
考慮しながら、広い視点で考え、行動する。グローカリゼーションという言葉がありますけれども、
それにつながると思います。この効果について、いかが、見解はどのようでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

今ほどご質問の関係のグローカリゼーションなんですが、やはり各ジオパークについて、自分の
特徴に改めて気づくことが可能なのかなというふうに思っております。

また、気づくことによりまして、また考える機会にもつながると思っておりますので、今ほどの
ご提言、改めて研究のほうを進めたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

力強い答弁、ありがとうございます。

この一般質問の準備段階で、事務局といろいろ話を伺う中で、こんなことが指摘いただきました。

1つは、糸魚川のようにヒスイ、きれいな石を持っているジオパークはよいけども、そうじゃな
い、きれいじゃない石というのはちょっと変ですけども、そうじゃない石しかないようなところは、
困るんじゃないかと、そういったご指摘です。

確かに宝石級のもので出るジオパークというのは、日本でも少数だと思います。

ただ、このジオパークの石というのは、いわゆる美人コンテストではないんですね。今、ルッキ
ズムというものを排除する動きが、これはもうまさにグローバルな情勢です、動きです。ジオパー

クの石というのはどうやって決めるかという、まず、ジオパークそれぞれの重要なジオストーリーといいますか、大地の物語、そういったものを有している、そういった石から選ばれるべきだと私は思っていますので、きれいな石がないから困るジオパークがあるんじゃないかと、それはちょっと違うんじゃないかというふうに私は思いました。

もう一つの指摘は、これはごもっともなんですけども、日本という国の中に46か所のジオパークがあります。そのかなりの数は、第四紀の火山、つまり新しい時代の火山、糸魚川では焼山のような新しい火山を持つジオパークである。中には、それが主体のジオパーク、例えば洞爺湖有珠山とか島原半島がそうですけれども、阿蘇もそうですね。そういった地域から選ばれる石は、重複してしまうんじゃないか。例えば今言った3か所は、安山岩とかデイサイトがあるんですけれども、重複してしまうことは困るんじゃないかという懸念でした。

私は、重複こそが意味があるんだと。というのは、日本の国土というのはいろんな岩石があるわけなんですけども、ジオパークになってる地域というのは、美しい風景を持っていて、国立公園になっている地域が少なくありません。つまり、日本の美しい風景というのは、火山活動によって得られる部分が多い。そういうことを考えると、重複することが、逆に大きな意味を持つてる。

それから、細かく見ますと、例えば安山岩という石も、太平洋側から出る安山岩と日本海から出る安山岩で特徴が違います。例えば、妙高山とその隣の黒姫山から出る安山岩でも特徴が違うんですね、細かく見ると。それは、プレートの沈み込みに起因するものなんですけども。このように、決して同じような石が選ばれても、ジオパークとしては何ら困ることはないとは私は考えています。これは事務局の懸念への回答です。

それから、今度は、決めて終わりじゃありません。どうやって活用するか、これがすごく大事なんですが、ジオパークというのは、決して頭でっかちの勉強会ではございません。石を通じて、私の理想は、遊んでるうちに気がついたら、いつの間にか賢くなってる。「まなそぼうよ」で、まさにその発想で創った言葉ですけれども、そういったことに石が使える。

例えばですよ、ジオパークのエリアの中の石をいろいろ考えてみると、石器造りに使える石があります。それから、以前ありましたけど滑らない石・滑る石コンテスト、例えば蛇紋岩なんかは非常に滑りやすいですよ。それから、石の古さのコンテスト、うちのジオパークから出してきた石は、云億年前だよと。その逆に、うちのジオパークのこの石は、僅か数十年前にできた。そういう新旧コンテスト。それから変わった石をコンテストする面白石コンテスト。それから、石によっては、紫外線を当てるとすごい光る石があるんですね。それから、後は磁石にくっつく石なんかもありますし、とても重たい石もあります。そういった石のコンテスト。それから、石を電子レンジに入れて温めた方は多分いらっしやらないと思うんですが、実は、蛇紋岩を電子レンジに入れると、物すごく熱くなります。これはちゃんと理由があるんですけども、そういった面白実験にも使えるわけですね。それから、食べ物としては石焼き芋とか、それから石焼き鍋とか、焼けた石を鍋に入れて煮る料理、これは秋田県で盛んです。こういったものに、ジオパークが選んだ石それぞれが活用できて、これを子供も大人も楽しみながら学べると、私は思っています。こういった石の活用の仕方について、担当課のご見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークネットワークの活動の中で、石を核にという今ご指摘の中で、いろいろな今、この石を活用した文化がその地域ごとにあるわけでありまして。それはやはり石という一つの共通項になっていくとは思いますが、しかし、各ジオパークがコンセプトとしているのは、やはりジオストーリーの中において、鉱物であったり、また、自然の出来事であったり、そういった災害であったり、そういうものを核にいたしておるわけでございますので、石というものは絶対外れてるわけではございませんが、やはりその辺の扱いが、大小考えられるわけでございますので、その辺のレベル合わせもやはり必要ではないかなと思っておりますので、そういった調整というものも必要になってくると思っております。でありますから、そういった、なるべく共通できる方々と動き始めながら、拡大していくことが私はいいいんじゃないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

日本ジオパークネットワークでは、毎年、大会が行われていて、いわゆるジオパークアンが、多数いらしてます。そういった中で、いろいろ相談されていくものだと私は思っていますけれども、例えば石を見ても、例えばあの火山はどうしてもっこりしてるか、あの火山はどうして平べったいのか。これは、実は石の性質を如実に反映した地形です。ですから石と地形を密接に結びつけて考えることもできるわけですね。

次、隣接するジオパークとの連携の一つの例として、立山黒部ジオパークのことをちょっとお話ししたいと思います。

立山黒部ジオパークは、糸魚川に約30キロにわたって隣接しています。ちょうど富山・新潟県境が、それに相当します。このジオパークには、世界で最も新しい花崗岩があるんですよ、約70万年前にできた。それより新しい花崗岩は、地球上にはないんです。そういったものがすぐ近くにある。なぜ、北アルプスにそんな新しい花崗岩があるのか。これは、糸魚川―静岡構造線で2つのプレートがぶつかり合ってるからですね。まさに糸魚川―静岡構造線というのは、この糸魚川ジオパークの大きな地質学的現象の一つです。ですから、糸魚川と関連づけて話すことが簡単にできる。

もう少し関連づけの例を申し上げますと、皆さん室堂に行くと、山崎カール、山崎圏谷といいますけど、それ見たことがあると思います。山崎直方という地理学者に基づいてつけられた名前ですが、実は、山崎直方が、最初に氷河を見つけたのは、糸魚川の雪倉山なんです。ですから、糸魚川が、氷河発見の最初の場所であります。

それから、山崎直方さんは東大出身ですけども、指導教官は、ナウマンの最初の弟子である小藤文次郎なんです。そのように、糸魚川のネタと関係して話してください。

さらに、これはちょっとジオパークネタじゃないですけども、本来、山崎は、妙高山を研究したぐらいで岩石学者だったんですね。それが、外国の留学を機に、地形学者にシフトします。岩石学

から地形学にシフトさせたのは、有名な嘉納治五郎なんです。

ですから地質学的現象と、皆さんがご存じの有名人とか、いろいろ有機的に結びついて語ることができる。これこそ、私はジオパークの醍醐味だと私は思ってます。紐づけ型解説と申し上げてますけども、このような説明について、担当課長、どのようなご印象をお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご提言ありまして、近隣のジオパークとの連携につきましては、今ほどご説明いただきましたように、様々な方がつながっておるんだなというふうに認識させていただきました。やはりジオパークは、歴史・文化等ストーリーをつなげながら、市民に分かりやすく伝えていく必要もあると思いますので、今後そういった件も、またこれから研究させていただきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

1番のJGNの発展と隆盛に関係するもので、最後になります。

「ブラタモリ」、この3月でレギュラー放送が終了となります。タモリさんも、今年で78歳、喜寿を過ぎてるわけですね。残念ながら、レギュラー放送は中止ということになります。「ブラタモリ」は、ジオパークにとって物すごい貢献をしてきたということは、言うまでもありません。「ブラタモリ」には、毎回のようにジオパーク関係者が登場していたわけです。

聞くとところによるとJGNも、各放送局にブラタモリ的なテレビ番組の制作をいろいろと頼んでいると聞いています。

NHKでも今、「ジオ・ジャパン」という番組が時々放送されてまして、そこに出てくる巽さんという人は、私が大学院時代に知り合った火山学者です。

調べると、ジオパークによる地域活性化推進議員連盟というものが、自民党と公明党両党の有志国会議員からできている組織があるんですね。ちょうど昨年、ジオパークによる地域振興を、会長の石破さんほかが大臣に、地域活性化担当大臣ですか、に依頼しています。実は、石破さんの出身は、鳥取県八頭——八つの頭と書いて「八頭」と読むんですけど——その実はすぐ隣は、若桜という町で、ヒスイの産地なんです。ですから、糸魚川でちょっと関連づけて、紐づけられるんですね。その議員連盟にブラタモリの後釜になるような番組の制作を、ぜひ担当部署とかに働きかけてもらう。そういった政治的なアクションは、できるんじゃないかなというふうに思っております。これは、市長にお伺いしたいところですので、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークにおいて、やはり「ブラタモリ」の非常に存在というのは、大きいと思っております。逆に、「ブラタモリ」の番組に対してジオパークの活動というのも、全国のネットワークの力というのも非常に大きいものがあつたわけでありまして、それは九州の大分の姫島のジオパークのときに、NHKからおいでいただいてお話しいただきましたが、やはりジオパーク抜きにして「ブラタモリ」はできなかったという話をそのとき初めて聞かされたわけでありまして、そういう中で各地域へ行くと、やはりジオパークの情報が「ブラタモリ」を支えてきたというのを、我々は自負いたしておる次第でございます。そういう非常に切っても切れない縁できたのがなくなるというのは、非常に寂しい限りであるわけでありまして、そういう中で、さらに我々はジオパークを発信していくという、啓蒙していく活動というのは絶対なくしてはいけない部分があるわけでありまして。

そういう中で、非常に政治の力というのもやはり強いと思っております。NHKにおかれては、やはり一つの大きな考え方で動いてるわけでございますので、やはり我々どのようにこの提供していくのか、そしてまた、どのように我々がアクションしていくかというのは、やはりいろんな手だてを考えなくてはいけないと思つている中においては、やはり今、議員連盟の皆様方の力というのも非常に大きいと思っております。そういった力を借りながら、ぜひとも地域振興の中においては、同じ目的であるわけでございますので、連携させていただきながら進めていきたいと思つております。それには、今100名を超えてる議員連盟の皆様でございますので、今事務局やつてる舞立様は非常に今熱心で、新潟県の担当でも、ジオパーク担当の課長をしていただいた歴史もあるわけでございますので、そういった内容を知っておられる方が本当に身近にいてくれるわけでございますので、そういった働きかけをしていきたいと思つております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ぜひ「ブラタモリ」の後釜番組の実現、今、ブラタモリロス症候群に私、陥りそうなんですけども、その症候群から早く抜けられるような番組を人の力で実現してほしいなと思つます。

続きまして、APGNの一員に移ります。（2）番ですね。

これは冒頭申し上げましたように、APGNの国というのは8か国にとどまっております。このAPGNの中で、香港ジオパークだけが、糸魚川でかなり積極的に紹介される。相互の行き来も盛んであります。もっと糸魚川ジオパークの中でAPGNのことを紹介する場面があつてもいいのかなというふうに思つます。多分、APGNのほかの国のジオパークに行つて、糸魚川のこととか日本のジオパークって、ほとんど紹介されてないように、今まで見た中では感じました。やっぱりAPGNは、せつかくネットワークなんですから、ネットワークとしての有機的なつながりをつくる必要がある。

そのための一つの手段として、石というものはどうかな。もちろん国石みたいに1個に絞ることは到底無理だと思います。ですから、各ジオパークから自分のジオパーク、自分の国の石は、これだよと。幾つか選んでもらつて、それを列挙する。そういったやり方が現実的かなと思つんですが、まずは、日本からそれを提案しなきゃなんないわけですね。

私、調べてみると、APGNのメンバーを見ると、ナンバー2のバイスコーディネーターという人がいまして、2人いるうちの1人は、日本人の古澤さんです、古澤加奈さん。それから、15人の諮問委員会（アドバイザーコミッティー）は、15人中3人が日本人です。これは国別でいうと最多です。ですからそういった方々に働きかけて、APGNとして、各APGNの国の石を決めようじゃないか、そういった提案をすれば、実現に向けて、可能性があるんじゃないかなというふうに思います。

昨日の伊藤 麗議員の一般質問で、台湾ジオパークネットワークとのフレンドシップ連携に向けた調整を進めているということが、答弁にありました。台湾では、野柳——野原の野に柳と書いて野柳、あと金爪石——金の爪の石、これは当時、東洋最大の金山でした。昭和天皇も皇太子時代にそこに訪問したことがあります。そのときに使った家が、まだ金爪石には残されています。そういった台湾のジオパークを市長ほか、課長もご覧になったかというふうに聞いてます。

私も2009年に台湾ジオパークを訪問させていただき、各地の優れた自然とか文化に接する機会がありました。台湾ジオパークネットワークとのフレンドシップの連携は、非常に私期待してるということです。

そこで私からの提案なんですけども、そのときに使えるアイテムは幾つかあると。

1つは、ヒスイです。故宮博物院の翠玉白菜というもの、このぐらいの大きさのヒスイでできた白菜なんですけども、それをご覧になった方がいると思うんです。これは、もう故宮博物院で最も人気のある展示物です。その展示ケースの周りは、もう人ばかりで、なかなか石が見えないぐらい、そういった状態です。ですから、台湾人は、ヒスイに対する思い入れが非常に強い。

このヒスイは、今から250年前、日本でいうと江戸時代のものです。実は、台湾には、ネフライトの文化、軟玉の文化があるんですよ。これは、日本の時代でいうと縄文時代中期、4000年前です。ですから、ヒスイと軟玉の文化を比べると、台湾では、軟玉の文化が、はるかに多い。しかも台湾で発祥した軟玉文化は、海を渡って、フィリピンとかインドネシアなど、あとニューギニアにも渡っています。これ何で分かるかという、台湾にいる日本人地質学者が研究して、それを調べたわけです。ですから、台湾というのは、ヒスイと軟玉に縁のある国ということで、それをキーワードにフレンドシップ連携を強化することが可能になるかと思います。これは私の提言です。

もう一つ、北投石という石、ご存じでしょうか、北に投げる石と書いて北投石と。これは秋田県の仙北市の玉川温泉が大変有名で、末期のがんに効くということがマスコミなんかで紹介されたために、よく盗掘に遭ってます。本来、売りに出るものじゃないんですけども、特別天然記念物ですから、売りに出るものじゃないんですが、ちまたでは、非常に高価な石として取引されているそうです。

実は、北投石は、今から100年以上前、1905年だったと思いますけれども、岡本要八郎という人が、台湾の台北の郊外に北投温泉という温泉があるんですよ。そこで最初に発見したものです。ですから、台湾で最初に見つかった石が、北投石。それを台湾の人がどれぐらいご存じかわかりませんが、そういったのをフレンドシップ連携に使えるんじゃないかと思います。

先ほど紹介した紐づけ型の解説なわけですけども、もう一つ最後に、市長は、金沢の大学で土木を学んでいらっしゃいます。金沢出身の非常に有名な土木技術者で、八田與一という人がいます、

八田與一。この方は、大正から昭和初期にかけて台湾に渡って、台湾で活躍した日本人です。何をしたかという、台湾の南部は当時、非常に夏になると日照りで田植えとかできない。畑もできない。そういったかなり不毛の地だったんですね。その地にダムを造って、大規模なかんがいを行ったんですよ。それによって、台湾南部は潤ったと。八田與一の業績は、台湾では知らない人がいないぐらい有名なものです。

数年前に、ダムの名前は烏山頭というんですね、烏の山の頭と書いて。烏山頭ダムの起工100周年記念行事が行われました。その記念行事は、当時の蔡総統以下、台湾の政治家トップ3が、全員そのダムのほとりで列席したというぐらい重要なイベントでした。日本からも、コロナでなければ日本人の政治家がいっぱい行ったと思うんですが、亡くなられた安倍さんが、ビデオメッセージを寄せられています。

台湾で知らない人はいないんですが、実は日本人で、八田與一の台湾での業績を知ってる人というのは、それほど多くないと思います。ですから、インバウンドでこちらのよさを向こうに伝えるのもいいんですが、逆に、台湾のすごさを、この糸魚川、あるいは日本のJGNの人たちに伝えることも、フレンドシップ連携では大事になってくるんじゃないかというふうに思います。

最後になりますけども、林先生に市長は、林俊全先生という台湾大学の先生に、2008年、ちょうど糸魚川が世界ジオパークを目指してるときに、ドイツのオスナブリュックという町で、ちょうど隣に座っていて、それ以来のお付き合いが続いてるわけです。昨年も林先生は、日本にいらっやいまして、交流をしております。林先生のおかげで、台湾とのつながりが確固たるものになったということは間違いありませんので、今後もフレンドシップ連携で、林先生を通じて、ぜひそのつながりをより強固なものにしていただきたいなというふうに期待しております。

これが最後になりますけれども、石のまち糸魚川というところから、糸魚川石、それから蓮華石、それから青海石、奴奈川石という鉱物が見つかってます。この名前は、公的な名前、奴奈川石を除いて、例えば糸魚川石は、学名はイトイガワアイト、レンゲアイト、オウミアイトというふうに世界で使われるときも、この言葉で使われています。

それから、化石でもオウミエンシスとついた三葉虫や腕足類があるんですよ。ですから、この地の名前というのは、きちんと学術的に検証を受けているものが少なくないということです。

一般質問に当たって調べたら、石という漢字は何年生で習うか、は当然、小学校1年生です。それから、糸魚川の3文字、「糸」、「魚」、「川」、糸魚川の「糸」は、やはり1年生で習う漢字なんです。それから、「川」は、当然のことながら1年生です。じゃあ「魚」は何年生からと調べたら、2年生で習うんです。つまり、糸魚川の3文字は、小学校の低学年で習う漢字なんですよ。これってすごく、偶然ですけど、武器になると思う。武器というか有力な戦力になると思うんですね。でも糸魚川って、読みにくいですよ、普通、読みづらい地名の一つです。だけど、人口が、糸魚川の10倍以上あるような、例えば枚方市、僕、最初、枚方市って読めませんでした。だけど、糸魚川という地名は、教科書に出ていたので、中学生の時代から読むことができました。これは、すごくラッキーなことだと思います。教科書に糸魚川—静岡構造線が出ていて、多くの人が読みにくい地名であるにもかかわらず、読むことができる。こういうのを、やっぱり生かしていくことが、石のまちの推進に重要なのかなと思います。ぜひ石のまちというキーワードを大事にして、地域振興と人材育成に当たっていただきたいことをお願いして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を45分といたします。

〈午前10時37分 休憩〉

〈午前10時45分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

おはようございます。公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、子育て支援について。

(1) 5歳児健診の導入について。

発達や情緒、社会性に問題がある児童や集団行動の場面で問題がある児童を早期に発見し、児童や保護者への早期支援を開始するための気づきの場となるため導入する考えはあるか。

(2) 不登校対策について。

① 多様な学びの場として「不登校特例校」を設置する考えはあるか。

② ひすいルームの運営費について、増額する考えはあるか。

③ 小学1年生の不登校が4,534人（文部科学省令和3年度調査）とあるが、低学年の実態把握と対策は考えているか。

(3) 保育園の在り方について。

① 糸魚川市の人口推移と立地を踏まえて、既存施設の集約化の方向性を考えているか。

② 保護者の働き方や通勤を加味した保育園の配置は考えているか。

③ 0歳から18歳までの一貫教育を行う市として、0歳から10歳までのプログラムを考えた保育園運営を考えているか。

④ 首都圏の方が利用できる保育園留学の仕組みは考えているか。